



IT化の現状を説明する文科省の森本参事官

「知恵の輪、ひとの和、学びの話」を合い言葉にわかつやまインターネット市民塾（坂口總之輔理事長）が二月二十六日、県民文化会館で講演会を開いた。同塾はインターネットを利用して、各種講座の受講、開設を通して、まちづくりや社会教育、情報化社会の進展をめざすNPO。従来は、単に受講するだけの講座が大半だが、同塾は、力をついた受講生が自ら講師となり、講座を開設することができるのが特徴。地域の人々が主体となり、教えあい学びあうことで、地域活性化やコミュニケーションビジネスの発展に役立つと考えている。

この日は、坂口理事長が市民塾の方向性を語った後、文科省生涯学習政策局の森本浩一参事官が「情報化が拓く生涯学習の新たな展開」と題し、日本のIT戦略と学校教育現場でのIT化状況、また、地域を超えた情報発信が可能となり、地域コミュニティが元気になることなどを語った。特に、「個々の学習意欲に応じて対応できるのがIT活用の利点」と話し、

インターネット市民塾

IT活用し「知の循環」を

受講生の講座開設も視野

「知識のストック」型教育から、「知の循環」型教育の仕組みを生み出す

「現代版寺子屋」と位置づけた。「世界遺産熊野古道を歩く」など六講座をスター

トとしている。坂口理事長は「これから認知されれば、数百講座ぐらいにはすぐになる。ネット上の技術的な問題点にも事務局がアドバイスします」と話している。

受講登録は無料。詳細はHP (<http://wakayama.shiminjuku.jp/>)。

ネット市民塾推進協議会の柵富雄さん、とさはちきんねつの川村晶子さんがそれぞれの取り組み事例を紹介した。

わかやまインターネット市民塾は既にネット上に「紀州の梅づくり」

事務局がアドバイスします」と話している。